

# 愛媛大学・愛媛県中小企業家同友会景況調査（EDOR）報告

## 第47回（2014年10 - 12月期）

2015年1月9日

愛媛大学総合地域政策研究会・愛媛県中小企業家同友会共同実施

問合せ先：曾我亘由（愛媛大学総合地域政策研究会）tel. 089-927-9238

愛媛県中小企業家同友会 tel. 089-968-3112

集計：野村恵利（愛媛大学法文学部総合政策学科3回生）

文章：曾我亘由（愛媛大学法文学部総合政策学科准教授）

### 県内景気、売上は減少するも採算は上向き、業況には不安感も残る

#### 【調査要領】

- (1) 調査期間 2014年12月1日 ～ 2015年12月26日
- (2) 対象企業 愛媛県中小企業家同友会会員企業
- (3) 調査方法 郵送による自計記入
- (4) 回答企業数 調査対象企業数 420社、回答企業 137社（回答率32.6%）

#### 【EDOR 調査結果概要】

（売上高、採算、採算水準、業況）

前回調査（2014年7-9月期）は、DI値が増税前の水準まで改善した結果となったが、今回の調査では、前回調査時から多くの項目でDI値が悪化した。売上高DIは前期比、前年同期比ともプラスの水準を保っているが、いずれも前回調査から悪化し、前期比で19.4から13.8へ、前年同期比で25.2から11.9へと悪化する結果となった。しかしながら、採算（経常利益）DIについては、前期比では3.6から14.1に好転し、前年同期比では12.9から11.9と1ポイントの悪化にとどまった。また、採算水準については35.5から46.7へと好転し、調査開始以来2番目に高い水準となった。一方、自社業況判断DIは売上高DIと同様プラスの値を保っているものの、前期比で9.4から3.0、前年同期比で12.2から6.7へと悪化した。業界業況判断DIについても前期比で-7.9から-15.5へと、前年同期比で-13.7から-20.8に悪化した。

採算が好転した企業にその理由をたずねたところ、その約7割（73%）が売上数・客数の増加を挙げており、次いで売上単価・客単価の上昇を挙げる企業が約24%となった。一方、採算が悪化した企業についてその理由をたずねたところ、その約67%の企業が売上数・客数

の減少を挙げており、次いで売上単価・客単価の下落、人件費の増加を挙げる企業が約 26% となった。原材料費・商品仕入額の上昇を挙げる企業の割合は原油価格の下落の影響から前回調査の 31% から 18.5% に減少した。

以上の結果から、今回の調査では売上高 DI、自社業況判断 DI、業界業況判断 DI について前期比、前年同期比とも前回調査から悪化したが、採算および採算水準 DI については前回調査から改善、もしくはわずかな悪化にとどまり、利益は確保する動きがみられた。今後の見通しについては、すべての項目で DI が悪化すると判断しており、県内中小企業の景況感 は来期も悪化傾向にあるのか注意深く見ていく必要がある。

#### (経営上の問題点)

今回の調査において、「同業者相互の価格競争の激化」を経営上の問題点として挙げる企業 がもっとも多く、回答企業全体の 37.3% を占めた。次いで「従業員の不足」を挙げる企業 が多く、34.1% となった。「民間需要の停滞」を経営上の問題点として挙げる企業の割合は、前 回調査の 50.0% から 25.4% まで減少した。また、「新規参入者の増加」についても前回の 31.8% から 12.7% まで下落しており、新規参入についてはひとまず落ち着いた状況である。

「仕入単価の上昇」を挙げる企業の割合は、27.0% と 3 番目に高い水準であるものの、ここ 3 回の調査では一服感がみられる。これは、増税後の価格転嫁の影響や円安の影響はあるも のの、原油価格の下落によって仕入単価の上昇の影響がある程度相殺されており、この点は 景気にプラスの材料といえるだろう。一方、「人件費の増加」は 2014 年に入ってから比較的 高い水準にあり、消費税増税の影響による人件費の増加や慢性的人手不足により（後述）、今 後、人員の確保が困難となることが予測され注意が必要である。

経営上の力点については、「新規受注の確保」、「付加価値の増大」、「社員教育」を挙げる企 業が多いが、「新規受注の確保」を挙げる企業の割合は前回の 58.5% から 46.5% に下落した。 経営上の問題点として「民間需要の停滞」、「新規参入者の増加」の割合が減少したことに連 動した形である。

#### 【特別調査】

今回は特別調査として雇用・採用に関する調査を実施した。雇用に関する調査は 2013 年 10-12 月調査以来の調査である。まず、従業員数、労働時間、労働の過不足感について聞いたところ、2013 年 10-12 月期と比較して正規従業員を増加させた企業が 25.4%、減少させ た企業は 8.2%、横ばいと回答した企業は 66.4% となった。前回調査では正規従業員を増加 させた企業の割合は 20.7%、減少させた企業の割合は 7.1%、横ばいと回答した企業の割合 は 72.1% であり、1 年前の調査と比較して、正規従業員数を増やした企業の割合が増加した 結果となった。パート・アルバイト数については（カッコ内は前回調査の割合）、増加させた 企業の割合が 19.5% (20.9%)、減少させた企業の割合が 13.3% (5.2%)、横ばいと回答し

た企業の割合が 67.3% (73.9%) という結果となっており、前回調査においては横ばいと回答する企業が約 7 割を占めていたが、採用においてはパート・アルバイトの採用から正規従業員の採用へと雇用の形態が変化している。所定外労働時間については 21.2%の企業が増加したと回答しており、前回調査の 14.4%から増加している。減少させた企業の割合は今回調査と前回調査ではほぼ横ばいで約 11%の企業が該当した。一方、労働の過不足感 DI については、前回調査において-40.4 と県内中小企業の人手不足感を反映する結果となったが、今回調査では-51.6 と、前回調査からさらに人手が不足・やや不足していると回答する企業が大幅に上回る結果となった。しかしながら、今後の採用予定について聞いたところ、70.8%の企業は採用の予定はないと回答しており、そのうち 43.3% (29 社) は採用したいという希望はあるが採用予定はないと回答しており、56.7% (38 社) は採用したい希望はないという結果となった。以上の結果から、県内中小企業の雇用環境は依然として厳しい状況にあり、慢性的な人手不足感が存在している。しかしながら、人手が不足していてもすぐには採用行動に出ることはできず、現状の人材で何とか経営を乗り切っていると考えられる。経営上の力点に「社員教育」が上位に挙げられている理由はこれらの背景が原因にあると考えられる。

# 第47回(2014年10-12月期) EDOR 調査結果

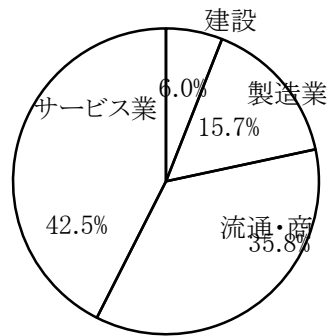
## 回答企業の基本情報

業種(4業種分類)

	社	%
建設業	8	6.0
製造業	21	15.7
流通・商業	48	35.8
サービス業	57	42.5
合計	134	100.0

※1社…農業

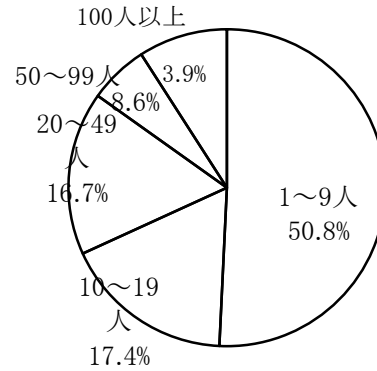
業種



常勤役員を含む正規従業員数

	社	%
1～9人	67	50.8
10～19人	23	17.4
20～49人	22	16.7
50～99人	8	6.1
100人以上	12	9.1
合計	132	100.0

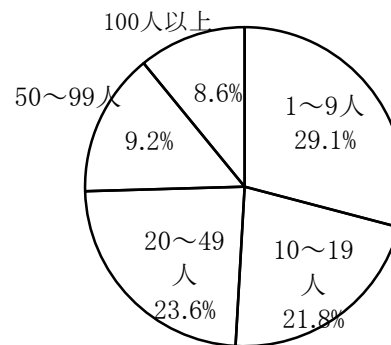
正規従業員数



臨時・パート・アルバイトを含む総従業員数

	社	%
1～9人	32	29.1
10～19人	24	21.8
20～49人	26	23.6
50～99人	16	14.5
100人以上	12	10.9
合計	110	100.0

総従業員数

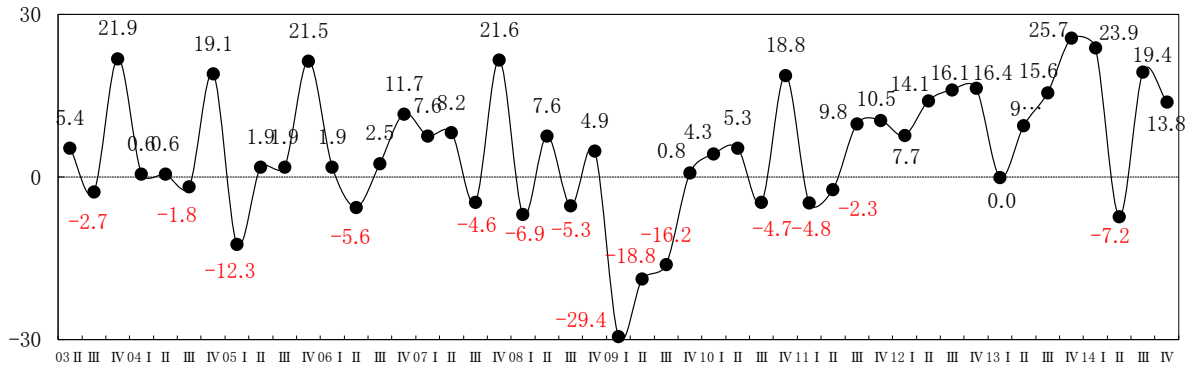


従業員数の平均と中央値

	人
常勤役員を含む正規従業員数	
平均	31.3
中央値	12
臨時・パート・アルバイトを含む総従業員数	
平均	52.5
中央値	17

ポイント

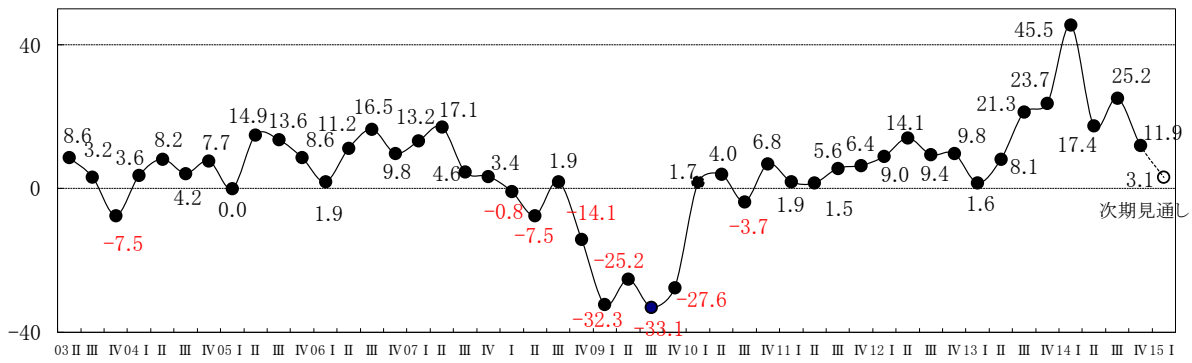
### 売上高DI(前期比)



注:売上高DI=「増加」%-「減少」%

ポイント

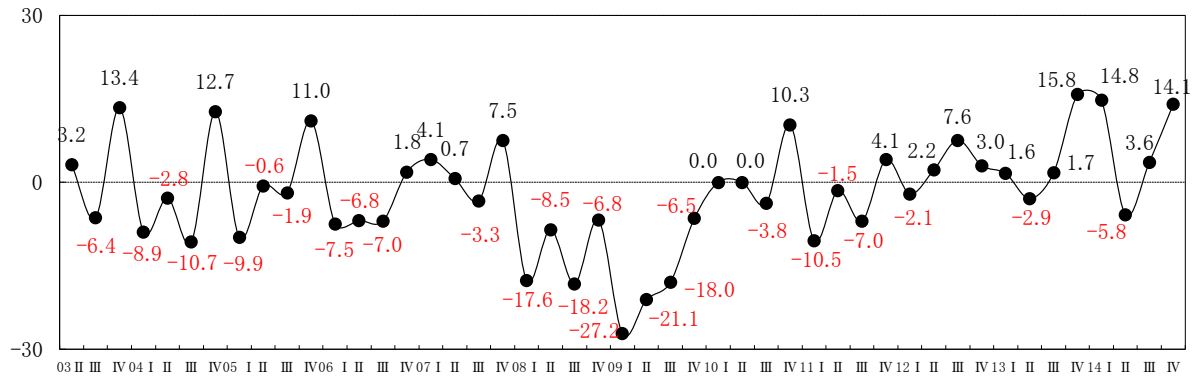
### 売上高DI(前年同期比)



注:売上高DI=「増加」%-「減少」%

ポイント

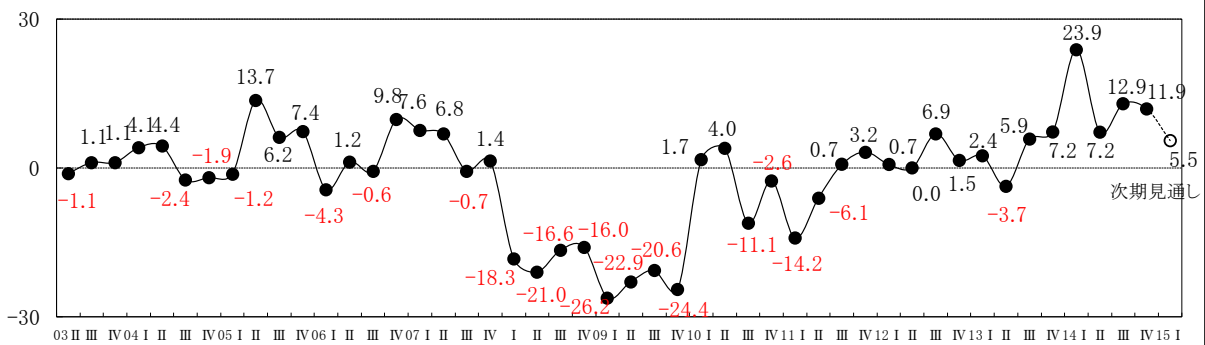
### 採算(経常利益)DI(前期比)



注:採算DI=「好転」%-「悪化」%

ポイント

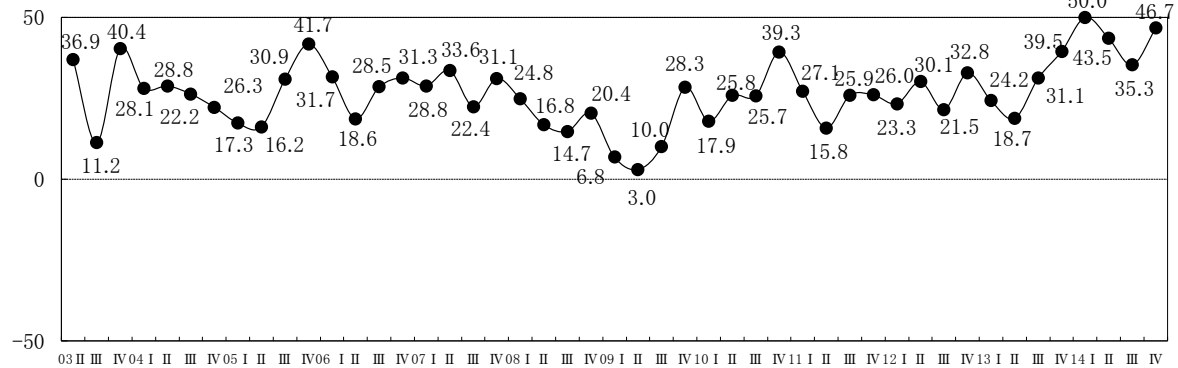
### 採算(経常利益)DI(前年同期比)



注:採算DI=「好転」%-「悪化」%

ポイント

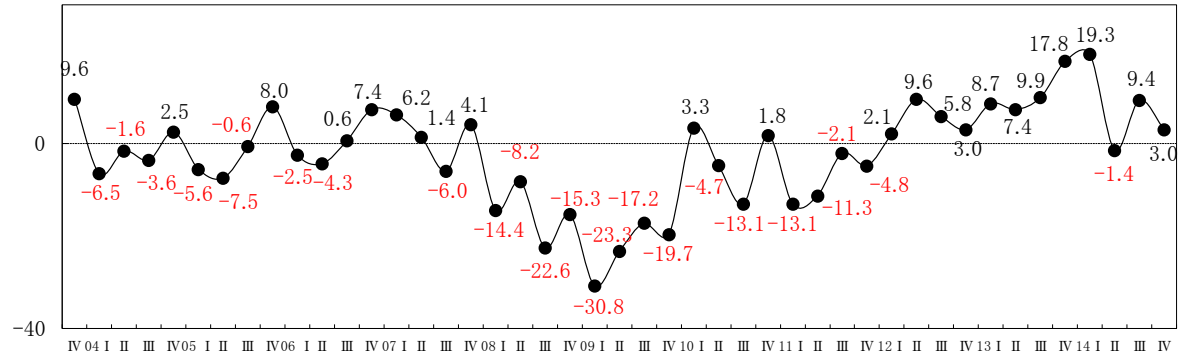
### 採算水準DI(当期)



注:採算水準DI=「黒字」「やや黒字」%-「やや赤字」「赤字」%

ポイント

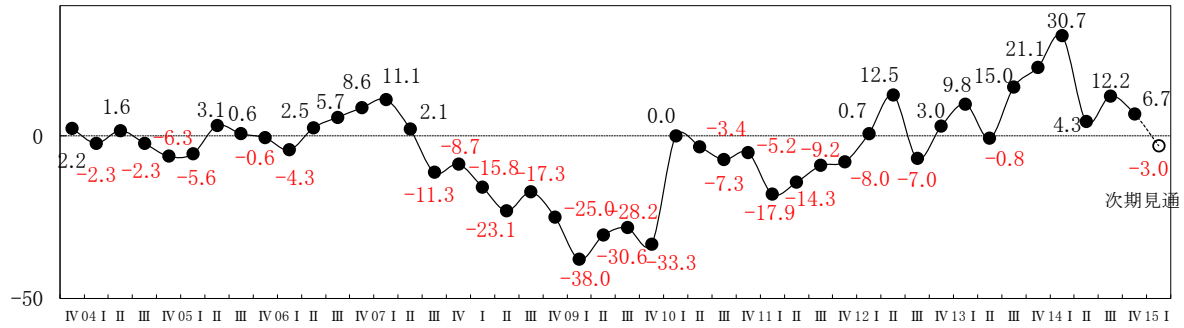
### 自社業況判断DI(前期比)



注:設問:各企業の経営状況全般について、業況判断DI=「好転」%-「悪化」%

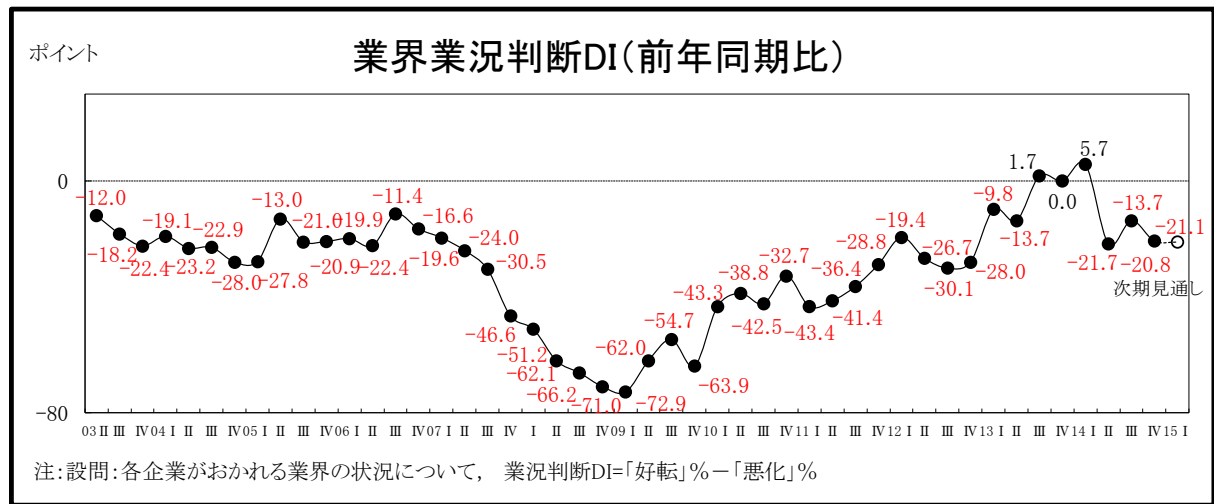
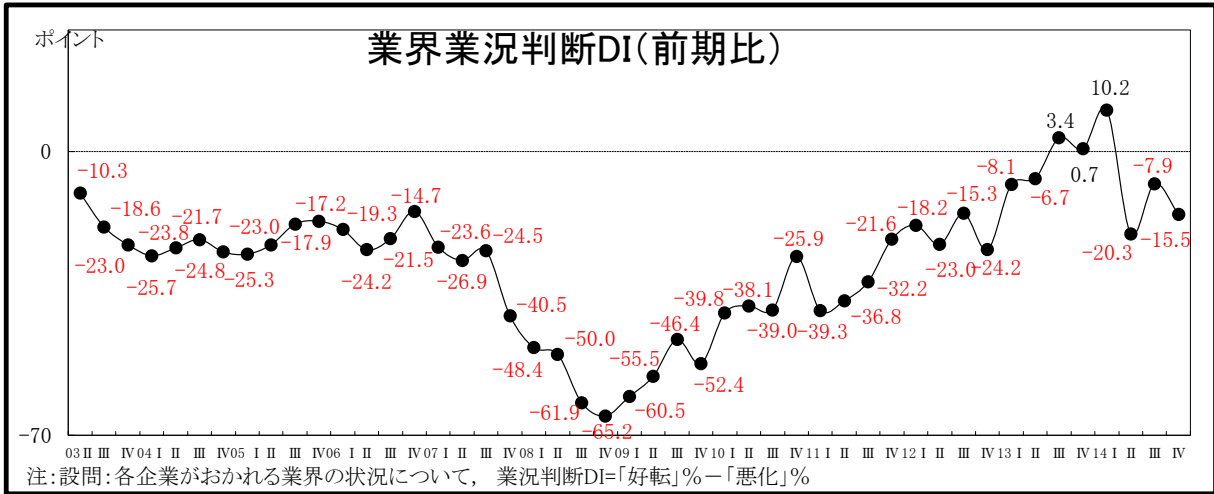
ポイント

### 自社業況判断DI(前年同期比)



注:設問:各企業の経営状況全般について、業況判断DI=「好転」%-「悪化」%

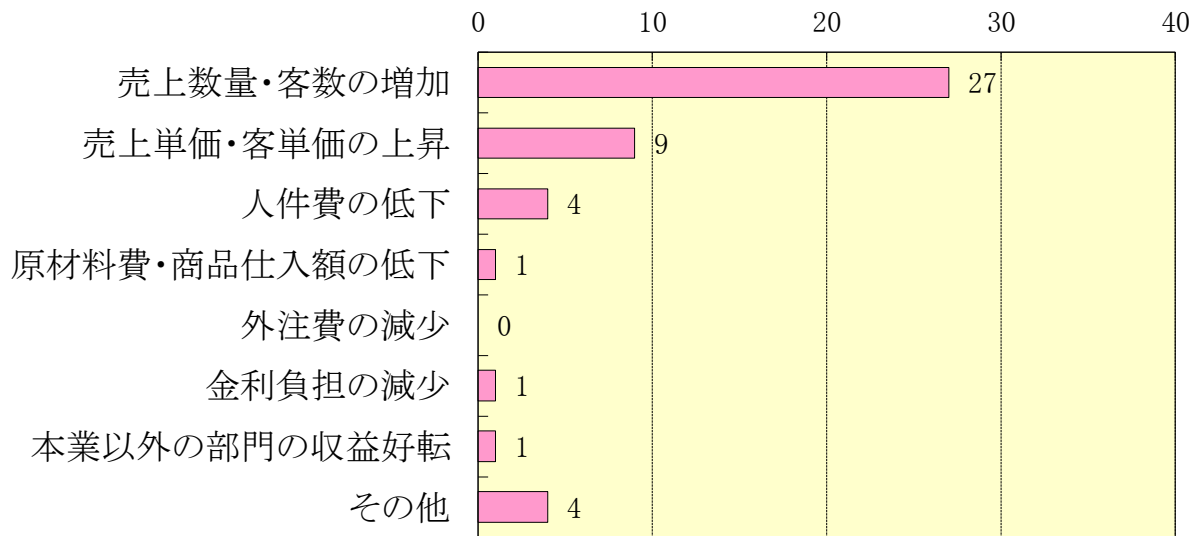
次期見通





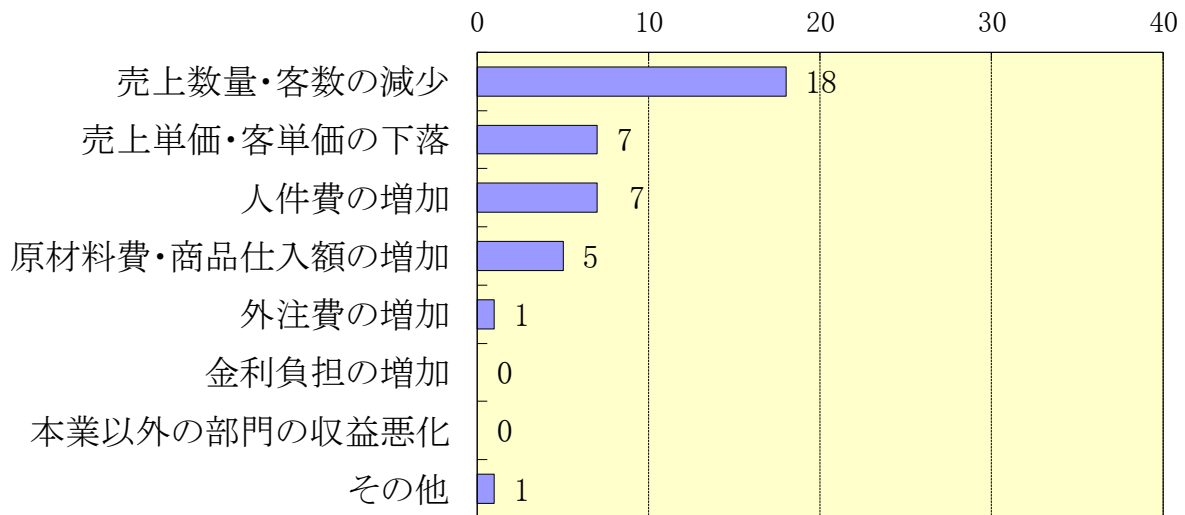
### 採算好転の理由

回答数

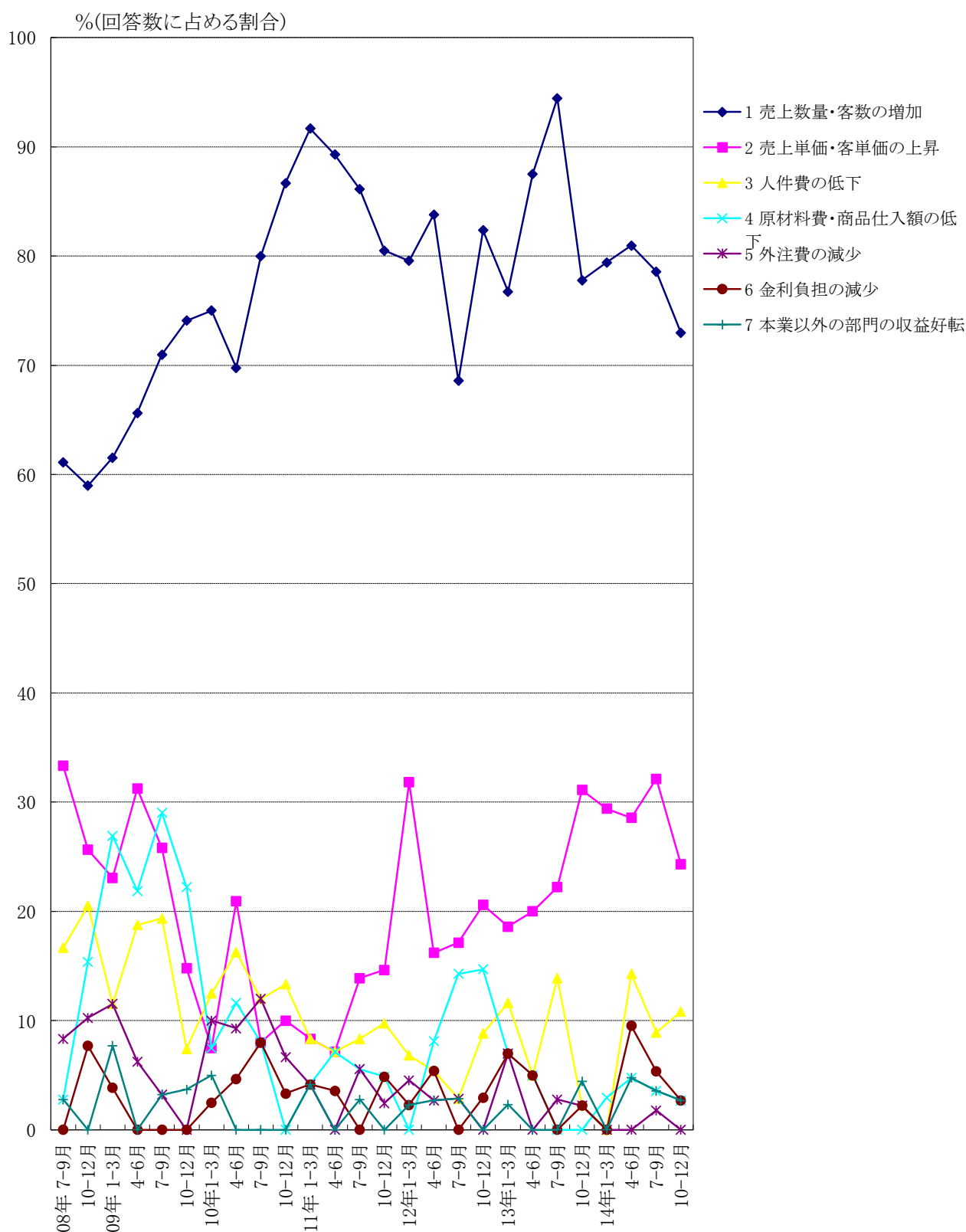


### 採算悪化の理由

回答数

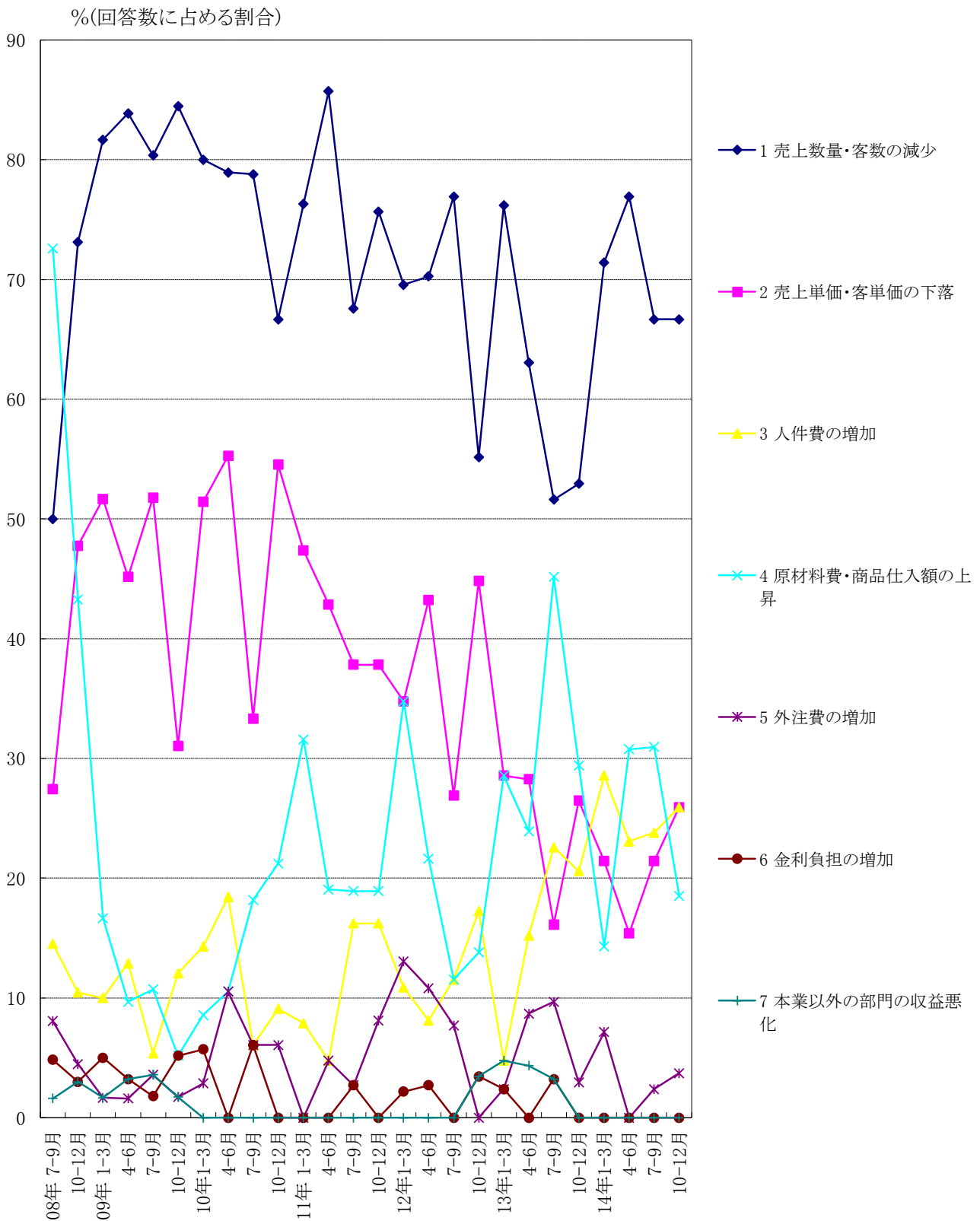


## 採算好転の理由の推移(2008年7-9月～2014年10-12月)



(備考)選択肢から3つを選んだ際の選択率。凡例は選択率の高いものから並べた。番号は設問における各選択肢の番号。

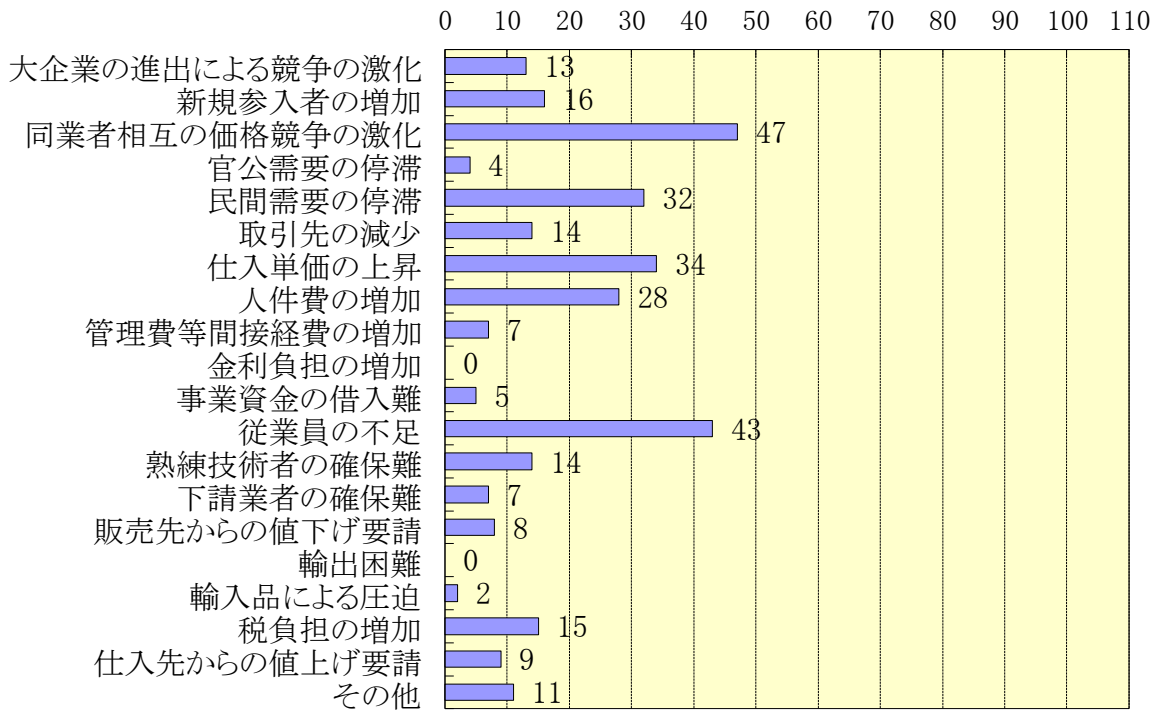
## 採算悪化の理由の推移(2008年7-9月～2014年10-12月)



(備考)選択肢から3つを選んだ際の選択率。凡例は選択率の高いものから並べた。番号は設問における各選択肢の番号。

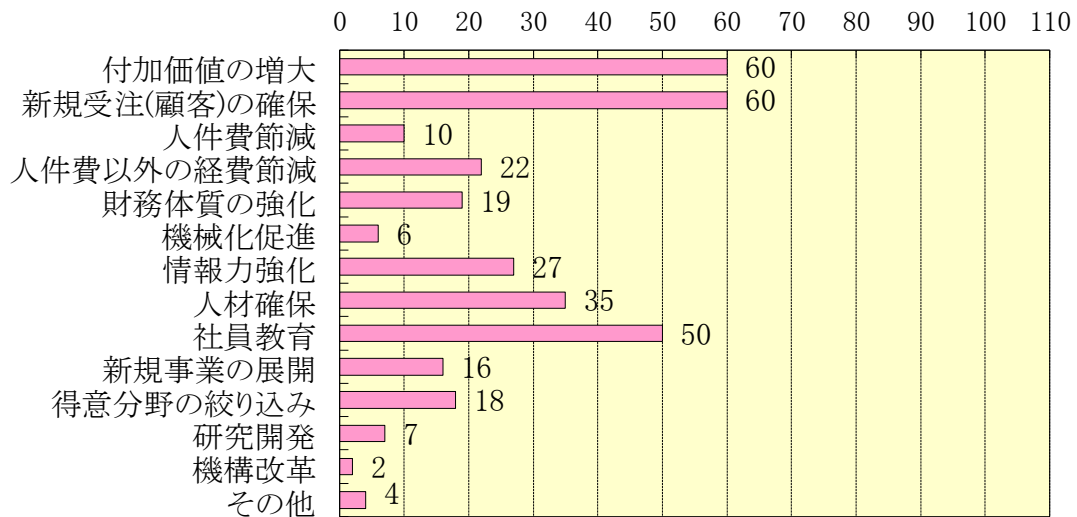
### 経営上の問題点(選択肢から上位3つ選択)

回答数



### 経営上の力点(選択肢から上位3つ選択)

回答数



# 今期における「経営上の問題点」の推移(2003年4-6月～2014年10-12月)

